

評価基準に基づく評価項目別の総合値

(令和8年度ニホンジカ大規模捕獲技術実証業務 公募型プロポーザル)

評価項目	配点	参加者別評価値
		野生動物管理技術高度化 コンソーシアム
1 課題認識と目指す姿		
○ 大規模捕獲技術が普及していない理由や普及の課題が認識できているか。	4	15
○ 「有害鳥獣捕獲ガイドライン（令和8年3月）」を踏まえ、ニホンジカを省力的かつ効率的に捕獲する手法として、鳥獣被害対策における大規模捕獲技術の活用の位置づけが明確に設定されており、その考え方は妥当か。	8	30
2 大規模捕獲技術の実証内容の革新性		
○ 従来の大規模捕獲手法が抱える課題を整理したうえで、実証する内容が、新しく開発する技術のほか、既存のICT技術と新しいアイデアを組み合わせた技術や新たな仕組みなど新しい発想でその課題を解決しようとするものとなっているか		
① 実施体制の整備・監理 本業務の円滑な実施に必要な体制整備と監理のあり方	8	26
② 捕獲計画の作成に必要な現状把握 実証地区の選定条件と捕獲計画（捕獲場所・時期・方法等）策定に必要な情報の収集・分析・可視化の手法	8	26
③ 大規模捕獲の実施 安全かつ効率的なニホンジカの大規模捕獲技術	8	22
④ 捕獲効果の検証 捕獲計画の検証（捕獲活動による効果等）に必要な情報の収集・分析・可視化の手法	8	24
3 大規模捕獲技術の実証内容の確実性		
① 実施体制 業務の確実な実施が期待できる体制となっているか。	8	30
② 提案者のスキル・実績・強み 提案者の大規模捕獲技術に係るスキルのほか、これまでの類似業務の適正な実績又は優位性が認められ、技術確立及び実装が期待できるか。	8	32
③ 機動性 実証地域の近隣地域（車で1時間程度）に常駐する事務所がある又は、サテライトオフィスなどを設置する意思も含め、天候などの変化や、不測の事態への対策が具体的に記述されているか。	4	16
④ 実証する技術の効果分析方法 実証する技術の効果分析に必要なデータとその収集方法は、具体的に盛り込まれているか。	4	13
⑤ 実施スケジュール 各業務の開始から終了に至るまでの年間スケジュール概要が明確に記載されており、適切な業務実施が期待できるか。	8	24
4 大規模捕獲技術の実証内容の普及性		
① 大規模捕獲の特性理解 大規模捕獲技術の特性を理解し、この技術の実施を検討する市町等に対して、実行判断に必要なポイントや既存の有害捕獲活動との組み合わせが整理できることが見込まれるか。	8	30
② 大規模捕獲手順書の構成 ①のねらいに即した「大規模捕獲手順書」の構成が提案されているか。	4	13
5 本業務の目的に応じたその他の提案		
① 各事業の成果を押し上げるために効果的な独自提案がされているか。	4	11
6 経費		
① 経費の内訳が明確であり、妥当性があるか。	4	10
② コストの有効性について、見積価格を基に、次の算定式で判断する。 配点（4）×（提案者中の最低見積金額）／（当提案者見積金額） ※小数点以下を切り捨て	4	20
評価点合計（100点満点）×5委員	500	342